

平成 15 年 8 月 21 日

## 「池袋演劇祭」開幕間近！

### － 15 周年記念特別公演・江戸川乱歩原作「押絵と旅する男」－

毎年 9 月の 1 ヶ月間、区内各劇場を舞台に多くの劇団が参加・競演する都内屈指の演劇イベント「池袋演劇祭」。15 周年を迎える今年、記念特別公演として、豊島区在住の舞台芸術家たちを中心に、江戸川乱歩原作「押絵と旅する男」が上演される。夢か幻か…乱歩の代表的短編小説を鬼才・辻村寿三郎が大胆に脚色、人形と人間が織りなす新たな演劇空間を創出する。

#### 【池袋演劇祭】

大小の劇場が多くあり、昔から舞台芸術学院や小劇団等の演劇活動が盛んな池袋。そんな「演劇の街・池袋」をアピールするため、1989 年にスタートした「池袋演劇祭」が、今年 15 周年の節目を迎える。「舞台が回る、今ときめきの街」をキャッチフレーズに、9 月 1 日のオープニング公演「としま能の会」を皮切りに、コメディからシリアス、ミュージカルにオペラと多彩な作品のラインナップ、15 会場で 43 公演が繰り広げられる。また、区民審査員を公募し、その審査に基づいて大賞（1 作品・賞金 30 万円）ほか各賞を選定するなど、地域に密着したイベントとして展開されるのも同演劇祭のユニークな特徴。

主催：豊島区舞台芸術振興会、後援：豊島区／財団法人豊島区コミュニティ振興公社／豊島区観光協会／財団法人東京都歴史文化財団東京芸術劇場

#### 【特別公演・江戸川乱歩原作「押絵と旅する男」】

15 周年記念の目玉は、江戸川乱歩の代表的短編「押絵と旅する男」を原作に、演劇人・作家・人形師・舞踊家という全く活動分野を異にする出演者たちがコラボレーションする意欲作。阿部寿美子（女優）、三遊亭圓窓（落語家）、林千枝（日本舞踊家）の区在住 3 氏に、人形出遣いの辻村寿三郎、川崎員奥の 2 氏を加え、ジャンルを越えた競演、さらに人形と人間とがひとつ舞台の上で絡み合い、かつてない新たな演劇空間を創出する。

今回の公演を企画するにあたっては、演目の決定が先行した。池袋発の創作演劇をめざし、池袋を終の棲家とした江戸川乱歩にスポットをあて、数ある作品の中から、乱歩自身が「私の短編の中でも最も気に入っているもののひとつ」と語った代表作「押絵と旅する男」が選ばれた。蜃気楼・のぞきからくり・遠メガネ（といった視覚幻惑装置を随所に仕掛け、押絵の中の娘（八百屋お七）に恋した男が逆さにした遠メガネを通して絵の中に入り込んでしまうという荒唐無稽な幻想譚。乱歩作品の中でもとりわけその幻想性が高く評価される同作品だけに、夢と幻が交錯する乱歩世界の舞台化にあたっては、「やはりこの人を置いていない」と、人形師・辻村寿三郎氏が構成・演出を手がけることになった。

辻村氏は、昨年の区制施行 70 周年記念特別企画「化鳥 2002」（泉鏡花原作）に次いで、同演劇祭 2 年連続の登板となる。昨年、鏡花独特の幻想世界に独自の解釈、演出方法を加え、ジュサブロー人形芝居に見事に昇華した辻村氏は、今回の乱歩作品についても、「以前からやってみたかった作品、この世界を表現できるのは自分だけ」と新作に意欲を見せる。人形づくりは勿論のこと、作品モチーフの押絵の制作、そして、音響・美術・照明にも数々の仕掛けを凝らし、辻村流幻惑術で乱歩の小説世界に拮抗する舞台空間を創造するという。

どんな舞台になるのか想像するのが難しい…まずは一見、「さア、ご覧ませ。」

◆公演案内、出演者プロフィール：別紙

詳細：コミュニティ振興公社



# 江戸川乱歩

原作

池袋演劇祭15周年記念特別公演

# 舞臺

構成・演出 辻村寿三郎

出演 阿部寿美子

林千枝

三遊亭円窓

川崎員奥

辻村寿三郎

「このお話が、一時の幻...  
 いいえ貴方、これは、幻ではございませんのよ  
 めったに他人に話すことでもございませぬ  
 貴方にだけ  
 その透眼鏡でごらんになっている貴方にだけ  
 そっとお話し申すのですわ。  
 さア、何からお話ししましょうかねエ」

9月6日(土) | 7日(日)  
 午後2時 午後6時30分開演(30分前開場)

東京芸術劇場小ホール1

全席指定 前売3,800円 当日4,000円  
 6月16日(日)発売 ※未就学児入場不可

主催 豊島区舞台芸術振興会  
 後援 豊島区(財)豊島区コミュニティ振興公社  
 豊島区観光協会 (財)東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

第15回 池袋演劇祭参加作品

チケット 池袋演劇祭 03-3590-5321  
 池袋演劇祭 全席指定 1,800円 (税別) 1,800円  
 池袋演劇祭 全席指定 1,800円 (税別) 1,800円  
 池袋演劇祭 全席指定 1,800円 (税別) 1,800円

# 江戸川乱歩 原 作

# 給祝する男

池袋演劇祭15周年記念特別公演

出演



三遊亭 円窓



川崎 員奥



辻村 寿三郎



阿部 寿美子



林 千枝

## 池袋演劇祭の新たなる挑戦!

演劇人、噺家、人形師、舞踊家による異分野のコラボレーション

地元池袋を終の棲家とした江戸川乱歩の代表的短編小説を原作に、豊島区在住の芸術家を中心に贈るかつてない演劇空間の創造

夢か幻か、のぞきからくりと、遠眼鏡をとおして展開される異世界

辻村寿三郎が創造する幻想世界を一流の演劇人がサポート

さァ、ご覧ませ。ご覧ませ。

ひとつのぞいて一の宮。

ふたつのぞいて二の宮様。

みっつのぞいて、見そこねて。

よっつのぞいて、四の宮様。

つつのぞいて、いつまでも。

のぞきつかれて寝むりこけ。

ひざの上で極楽往生。

蛤の貝の中で

帰る家も忘れはて……。

蛤の貝の中で

帰る家も忘れはて……。

### スタッフ

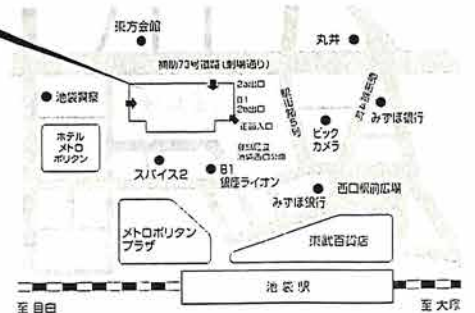
構成・演出……………	辻村寿三郎	振付……………	林 千枝
演出補……………	入谷 俊一	舞台監督……………	市川 兵衛
照明……………	戸谷 光宏	資料提供……………	関川 勝夫
効果……………	安良岡 茂	制作協力……………	平樹 典子
音響……………	阿部 洋子		

### 企画制作

豊島区舞台芸術振興会・「池袋演劇祭15周年実施委員会」

### 東京芸術劇場

池袋駅西口から  
徒歩2分



## 出演者

### 辻村壽三郎

本名、辻村壽三郎（つむらじゆさぶろう）。人形師、着物デザイナー、舞台、映画等の衣装デザイナー、演出、脚本、アートディレクター等多岐に渡り活躍。1933年11月、旧満州、錦州省朝陽に生まれる。少年時代を大陸で過ごし、終戦の1年前の昭和19年に広島に引き揚げ、広島県三次市で終戦を迎える。



22歳で上京、前進座の河原崎國太郎氏の紹介で小道具制作の会社に就職、26歳で独立、創作人形を一生の仕事と決意。1974年NHK総合テレビ「新八犬伝」の人形美術を担当、「躍」注目を浴びる。その後数々の創作人形の発表、人形考査の上演、舞台衣装のデザイナーなど、精力的な活動は人形の世界にとどまらず、総合的なアーティストとして各方面より大きな注目を集めている。

- 1975年 第10回モービル児童文化賞受賞
- 1976年 51年度ゴールデンアロー賞受賞
- 1977年 51年度芸術選奨（文部大臣新人賞）受賞  
日本舞台テレビ美術家協会賞受賞
- 1980年 「海人別荘」昭和55年度芸術祭「優秀賞」受賞  
財団法人民族衣装文化普及協会「きもの文化賞」受賞
- 1984年 日本文化デザイン会議賞受賞
- 1985年 菊田一夫演劇賞特別賞受賞
- 1990年 イギリス、ローレンス・オリビエ賞ノミネート

### 林千枝



3歳で林流家元・二世林一枝に入門、17歳で師範名取・林千枝となる。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。卒業後より本格的な舞踊活動を開始。古典と創作両面で注目を集める。87年創作舞踊劇場公演「カルメン」で主役のカルメンを踊る。同年より現代舞踊家とのジョイントでジャンルを超えた活動を展開し、話題作が生まれている。振付家としても、小品シリーズから、大作まで幅広く手掛け、また「文化庁芸術祭記念公演」「箱根彫刻の春美術展20周年記念式典」などのイベント、演劇の構成・振付・出演等も多い。国際交流基金、東京都文化振興会等の派遣により、アジア、中東、豪等で公演。

一方、舞踊の普及にも務め、各地で集中講座、ワークショップを開催するとともに、豊島区舞臺芸術振興会の理事として、池袋演劇祭の実施、豊島区における舞臺芸術の振興・発展にも寄与している。

主な受賞歴 77・78・79年、日本舞踊協会新春舞踊大会大会賞受賞。この3年連続受賞により、会長賞を受賞。83年度芸術選奨文部大臣新人賞受賞。「オルフェ」で87年度文化庁芸術祭賞受賞。「林千枝リサイタル」の成果により88年度文化庁芸術祭賞受賞。「林千枝のおどりカタログ」が豊島区民により池袋演劇祭賞賞に選ばれる。NHK TV芸術劇場で主演した「証明」が国際エミー賞受賞。

### 川崎員興



昭和29年広島県生まれ。29年に華道家元池坊に入門、華道家として活躍。

平成3年、上京し、辻村壽三郎に指示、華道の傍ら人形振り各地の公演に参加。人形出遣いとしては平成6年「恋心」（帝國劇場、浅岡ルリ子主演）で初舞台をつとめ、蛸川幸雄演出「近松心中物語」「元禄港歌」等で辻村壽三郎と交代で出演。近年では寿三郎の衣装デザイナーのコーディネートターの仕事もつとめ、人形、衣裳、舞台と幅広く活躍している。

### 三遊亭圓窓



昭和15年、東京深川にて三人兄弟の長男として生まれる。34年3月、八代目春風亭柳枝へ入門。枝女吉（しめきち）を名乗る。同年二月、三遊亭圓生門下へ移り吉生（きつしよう）と改名。48年、真打ら昇進、三遊亭圓窓を襲名。「圓窓五百噺を聴く会」スタート（ゴールは28年後の平成13年）。

落語の可能性を追求する活動でつとに有名で、パソコン通信による「圓窓五百噺全集」「落語歌謡」から始まって、現在はインターネット・サイトで「圓窓落語大百科事典」を展開中である。また、創作落語の世界においても、「五文落語」「四行伝説落語」「仏笑落語」の各シリーズのほか、狂言とのジョイント落語、創作民謡落語、演劇落語等々、多彩な活動を展開。師匠である三遊亭圓生の誕生日・命日である9月3日に毎年開催している「圓生物語」も、今年で六回目を数える。著書は「おもしろ落語図書」全十巻、「圓窓ひとりごと」、「人の話の聞き方入門」「圓窓五百噺小咄を読む本」ほか多数。平成13年度の小学四年生の教科書に「圓窓作」『そろそろ』が載り、話題を呼んだ。平成13年9月より日本芸術学博士学位の非常勤講師を務める。現在も様々な分野で話題を提供しながらも生の落語を観賞する人を一人でも増やしたいと願って、古典、新作を問わず落語の普及に東奔西走している。

### 阿部寿美子



東京都出身。1948年、青山杉作演出「馬」で初舞台をふむ。52年、俳優座第一期生卒業後、俳優座入団。56年退団。以後はフリーとなる。青山杉作、千田是也、木村光一、早野寿郎、中川寿夫各氏演出の舞台に数多く出演。代表作：「ポロと宝石」「警察検校」「越前竹人形」「羅生門」「ゴドーを待ちながら」「蒼き狼」「マクス」「山せう太夫」「救急車」演劇岸から遠く離れてなど。

映画では、佐分利信監督「働かざるでスクリーンデビュー以来、今井正監督「橋のない川」二部作、山田洋次監督「霧の旗」、中川信夫監督「怪談累が淵」、今村昌平監督「復讐するは我にあり」等出演作品多数。特に根木順義監督、北村寿夫のデュオは代表作である。また、原文を生かした朗読と語りの世界にも活動の場を広げ、数多くの語り芝居を上演しており、横浜において85年から、長崎源之介作品の朗読と語り「8月15日平和を語る会」の上演を続け、本年で18年目を迎えた。

01年には自身初のプロデュース公演で、語り芝居「阿部寿美子の会「山月記」作・中島敦」を上演、大好評を博す。

辻村壽三郎氏の人形考査の語り手として、数多くの舞台に出演。ヨーロッパ公演にも参加。また、昨年の化鳥2002では、辻村氏本人とも共演。

また、豊島区舞台芸術振興会副会長として、「池袋演劇祭」開催の中心を担い、地域振興と演劇の裾野の広がり、さらに若手演劇人の育成にも力を注いでいる。